







昭和十三年

# 福井縣統計書

第一編

(土地及戶口等)

---

福井縣



## 緒 言

福井縣統計書ハ明治十四年刊行ヲ以テ嚆矢トナシ爾來縣下行政、經濟、其ノ他各般ノ統計ヲ蒐集シ既往現在ノ文化ノ狀勢ヲ大觀セムカ爲毎年之ヲ刊行シ今ヤ昭和十三年統計書ノ編纂ヲ以テ第五十八回ノ記録ヲ重ヌルニ至レリ。本書編ヲ分ツニ其ノ一ヲ土地、戶口等其ノ二學事、其ノ三ヲ産業、其ノ四ヲ警察、衛生トス。

各編ニ收録セル資料ハ市役所、町村役場ヨリノ報告又ハ他官廳、其ノ他公共團體ヨリ直接ニ蒐集セルモノ及廳中各課ノ調査ニ依リタルモノナリ。蓋シ世運ノ進展ニ伴ヒ統計ノ利用愈々多キヲ加ヘ來タルニ鑑ミ内容ノ正確ヲ期スルト共ニ其ノ表彰方法ニモ逐次改善ヲ加ヘタルモ尙遺憾ナキヲ保セズ將來更ニ檢討ヲ加ヘ時世ノ要求ニ應セシムル所アラムトス

昭和十五年三月

福井縣總務部

# 昭和十三年福井縣統計書 第一編

## 凡 例

本編ハ昭和十三年又ハ昭和十三年度ノ事項ヲ掲載シタルモノナリ、然レドモ其ノ以後ノ事項ニシテ調査ヲ了ヘタルモノハ之ヲ掲載シ又ハ已ムヲ得ザルモノハ昭和十二年若ハ昭和十二年以前ノモノヲ掲ゲタルモノアリ。

編中何年度ト記スルモノハ其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年度、何年末ト記スルモノハ其ノ年十二月三十一日現在、何年度末ト記スルモノハ翌年三月三十一日現在、何年ト記スルモノハ其ノ年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル一曆年間、何日ト記スルモノハ其ノ日現在ノ意ナリ。

前數年ノ事項ヲ列記シタルモノハ本表ノ數字ト其ノ質ヲ同ウシ即チ本表現在數ナルトキハ比較數亦現在數一年間又ハ一年度間ノ數ナルトキハ比較數亦一年間若ハ一年度間ノ數ナリ。

數位ハ千位百萬位ニ「,」小數アルトキハ一位ニ「.」ヲ附シ不詳ノモノハ「・・・」一位ニ滿タサルモノハ「0」全ク無キモノハ「—」ヲ填入セリ。

金錢ニ關スルモノハ概ネ四捨五入ノ法ヲ用ヒテ圓位ニ止メタリ。

# 昭和十三年 福井縣統計書目次

## 第一編 土地及戶口等

總 說	1	34 年齡(十七區分)及配偶關係別人口	20
土 地		35 特殊年齡別人口郡市別	21
1 土地總段別	4	36 婚姻、離婚、出生、死産、死亡總覽(實數)	21
2 民有有租地地積及賃賃價格	4	37 婚姻、離婚、出生、死産、死亡總覽(比例)	22
3 氏有無租地	5	38 月別婚姻、離婚、出生、死亡、死産	22
4 年期地地積及賃賃價格	6	39 種類別婚姻件數及離婚件數	22
氣 象		40 夫妻ノ年齢階級婚姻前ニ於ケル縁事身分別婚姻	23
5 測候所	6	41 夫妻相互ノ婚姻前ノ配偶關係初婚、死別、離別組合ヨリ見タル婚姻件數	23
6 氣壓氣温及濕度	7	42 父又ハ母ノ職業ニ依リタル出生數及死亡者ノ職業ニ依リタル死亡數	24
7 平均氣壓	7	43 胎兒ノ月數ニ依リ分チタル死産數	24
8 平均氣温	7	44 年齡ニ依リ分チタル五歳未満死亡者數	25
9 平均濕度	8	45 原因別死亡(大分類)	26
10 平均曇量	8	交通及通信	
11 降水日數及降水量	8	46 道 路	27
12 降雪日數及期節	9	47 私設鐵道	27
13 快晴日數	9	48 私設鐵道運輸	27
14 曇天日數	9	49 郵 便	31
15 暴風日數	9	50 電 報	32
16 結霜日數	10	51 電信線路及線條	32
17 最多風方位	10	52 市内電話線路及線條	33
18 風ノ速度	10	53 市外電話線路及線條	33
19 風ノ平均速度	11	54 電話加入者數	33
20 沿海及河川流域雨量	11	55 電話料收入	34
21 地方暴風雨信號所	12	56 ラヂオ聴取者	34
22 暴風雨標位置	12	57 諸 車	34
23 測候用無線電信機	12	58 海岸延長及港灣	35
24 地震計	12	59 港灣ノ狀況	35
25 地震計ニ現レタル震動	13	60 燈 臺	35
戶 口		61 浮 標	35
26 市町村別面積	13	62 船 舶	36
27 市郡別人口	14	63 港灣入港船舶ノ隻數及噸數	36
28 市町村人口	15	64 敦賀浦鹽斯德間汽船乘客人員	37
29 推計人口	18	土 功	
30 普通世帯及其ノ人口	19	65 水害員數	38
31 現在人口、一時現存者、一時不在者及常住人口	19	66 水害損失價格	38
32 人口階級別市町村數及人口	19		
33 配偶關係別人口	20		

67	工事別土木費決算	38
68	工種別土木費決算	39

### 社寺及宗教

69	神社及神職	39
70	寺院及僧侶	40
71	各宗派別寺院	40

### 兵 事

72	壯丁教育程度種別	42
73	壯丁体格検査	42
74	壯丁身長及体重最高最低	43
75	海軍志願兵	43
76	日本赤十字社員及年俸金	44
77	愛國婦人会	44

### 議 會

78	貴族院議員多額納稅議員互選者	45
79	衆議院議員選舉	47
80	縣會議員選舉	48
81	縣會議員無効投票	49
82	縣會及縣參事會	49
83	福井市會議員選舉	49
84	敦賀市會議員選舉	49
85	福井市會及市參事會	50
86	敦賀市會及市參事會	50
87	町村會	50

### 官 公 吏

88	縣廳各部分課	50
89	休職官吏吏員職員	50
90	縣職員(課別)	51
91	市吏員	53
92	町村吏員	54

### 財 政

93	縣市町村水利組合歳入歳出	54
94	直接稅負擔(決算)	55
95	國 稅	56
96	地 租	56
97	所 得 稅	58
98	相 續 稅	59
99	第三種所得稅種類別決定額	60
100	織物消費稅	60
101	營業收益稅	62
102	酒 造 稅	62
103	國稅滯納人員及金額	64

104	租稅外國庫收入	64
105	國庫支出縣經費	66
106	縣 歳 入	68
107	縣 歳 出	70
108	縣 稅	72
109	縣稅滯納處分	72
110	特別會計=屬スル縣歳入歳出	73
111	福井市歳入	74
112	福井市歳出	74
113	福井市稅	76
114	敦賀市歳入	76
115	敦賀市歳出	76
116	敦賀市稅	77
117	福井市瓦斯事業費歳入	77
118	福井市瓦斯事業費歳出	78
119	福井市水道事業費歳入	78
120	福井市水道事業費歳出	78
121	町村歳入	80
122	町村歳出	82
123	町 村 稅	84
124	普通水利組合歳入	84
125	普通水利組合歳出	85
126	水害豫防組合歳入	86
127	水害豫防組合歳出	86
128	縣有財產ノ一	87
129	縣有財產ノ二	89
130	縣有財產ノ三	89
131	市基本財產	89
132	町村基本財產	90
133	市 債	90
134	町村債	92

### 其 他

135	篤行奇特者	92
136	瓦 斯	93
137	瓦斯製造高及消費高	94
138	瓦斯火口數及料金	95
139	令達公布件數	94
140	收受發送文書件數	94



# 總 說

## 位 置

本縣ハ北陸道ノ西南部ニ位シ南ハ北緯三十五度十八分四十五秒ニ始マリ北ハ北緯三十九度十六分三十八秒ニ終リ東ハ東經百三十六度四十六分三十秒ニ始マリ西ハ東經百三十四度二十七分十七秒ニ終ル。

北ハ石川縣ニ境シ東南ハ岐阜縣ニ接シ西南ハ京都府、滋賀縣ニ連リ北ハ日本海ニ面シ航路ニ夜ヲ隔テテ遠ク蒲葦ト相對ス。

## 地 勢

越前ハ四面山ヲ繞ラシ中央ニ一大盆地ヲ包拵ス、所謂越前平野ニシテ縣下最大ノ平地ナリ。東北加賀白山ヨリ起レル山脈ハ別山ニ至リ岐レテ二脈ト爲リ重疊起伏シテ國境ヲ限ル。一ハ國ノ東南ヲ走り大日、油坂、龜帽子、荒島、冠嶽ノ諸峯ト爲リ極メテ急峻ナリ。一ハ北境ニ近ク國內ヲ西ニ走リテ經ケ嶽、鷲ヶ嶽、淨法寺、丈叢ノ諸山トナリ西北國道附近ニ至リテ漸ク高度ヲ減シ海ニ近ヅク。國境山脈ノ最高點ハ二ノ峯ニシテ加賀飛騨ノ境ニ等エ一千九百六十二米白山火山脈ニ屬シ本縣第一ノ高峯ナリ。又國ノ西方日本海ニ近ク蟬風セル一脈アリテ國見、鷲嶽、越ノ知諸山ト爲リ山脚海ニ近リテ平地ヲ見ズ、奇巖屹立シ激浪岩ヲ嘯ムノ地多ク北端餘脉盡クル所僅ニ砂丘ヲ形成ス。

河川ハ概ネ東南ノ山境ニ其ノ源ヲ發シ西北流レテ九頭龍、足羽、日野ノ三川ト爲リ後合シテ九頭龍ノ本流三國港ニ至リテ日本海ニ注グ。上流ハ千仞ノ溪谷ヲ奔リテ隨所ニ水力發電ノ原動力ヲ供給シ漸ク流ル、ニ及ビテ流域一帯ヲ灌溉ス。平坦部ハ所謂越前平野ニシテ土地肥沃ニシテ五穀豐穰ナリ。

若狹ハ越前ト其ノ趣ヲ異ニシ南方ニ二十三間間山、百里ヶ嶽、三國峠、ハツ峯、西方ニ青葉山等ノ峰巒國境ヲ限リ北方ニ傾キテ海ニ至ル。從テ河川ノ大ナルモノ渺ク南川、北川ヲ其ノ主ナルモノトシ狹少ナル平地處々ニ點在スルノミニシテ水田ニ乏シク爲ニ養蠶ノ發達ヲ來タスニ至レリ。

海岸線ノ總延長百九十八軒ニ達シ嶺北沿岸一帯ハ風曲ニ乏シク港灣ノ見ルベキモノナシ。之ニ反シテ嶺南四郡ノ沿岸ハ出入甚グ多ク頗ル肢節ニ富ミ岬角參差シテ複雑極マリナキ形貌ヲ有ス、越前岬ヨリ西方京都府經ケ岬ニ至ル一線以南ハ所謂若狹灣ニシテ古來新府、沈降、隆起、浸蝕、沖積等交々ノ影響ヲ受ケ地形上瀨戸内海、伊勢灣、淀川流域、近江盆地ト不離ノ關係ニ立ツモノナリ。灣内更ニ敦賀、小濱ノ灣入アリ、裏日本海運上幾多ノ將來ヲ有ス。

## 廣 袤

總面積四千二百六十四方軒餘ヲ有シ廣袤全國四十六府縣中第三十三位、山梨縣ニ比シ狹ク、富山縣ニ比シ稍大ナリ。然レドモ山地三分ノニヲ占ムルヲ以テ廣袤ノ割合ニハ利用面積渺シ。

## 土 地

本縣ノ土地總設別ハ二十三萬六千六百九十九町步、内官有地五千四百六十二町六段、民有地二十三萬一千二百三十六町三段

ナリ。民有々租地ハ十八萬五千二百八十一町三段ニシテ約七割ニ當リ民有無租地及年期地ハ四萬五千九百五十五町ナリ。

之ヲ種類別ニ見レバ、官有地ハ山林四千七百四十四町三反、公私立學校及官公署敷地七百十八町三反、有租地ハ山林十一萬六千六百三十三町二反、田四萬八千六百十七町五段、畑一萬二千百九町、宅地五千三十一町四段ヲ主ナルモノトス。

## 氣 象

本縣ハ一方日本海ニ面シ他方山嶽ニ依リ閉レタル地勢ナルヲ以テ其ノ氣候ハ主ニ海上ヨリノ影響ニ依リ左右セラル、傾向ニ在リ、尙溫度ノ如キニ至リテハ本邦中最タルモノニ屬シ冬季ハ積雪多ク各種産業ニ影響スル處多シ。

昭和十三年中ノ平均溫度ハ福井79%、敦賀76%ニシテ氣温ノ最高ハ八月ノ福井二七度、敦賀二十六度七、最低ハ一月ノ福井一・一度二月ノ敦賀二・三度ナリ。平均氣温ハ福井ニ在リテハ十三・九度、敦賀ニ在リテハ一四・四度ヲ示シタリ。

又降水日數ハ福井ニ在リテハ二百二十四日、敦賀ニ在リテハ二百二十一日ニシテ、雨天ハ殆ンド一年中三分ノニヲ占ム。之ヲ月別ニ觀レバ福井ニ在リテハ一月ノ三十日、敦賀ニ在リテモ同月ノ二十七日最モ多ク、福井ノ八月ノ十二日、敦賀ノ同月ノ十一日ヲ最少トス。

尙同年中ノ降雪期間ハ福井九十八日、敦賀百十二日、最深積雪ハ福井ニ在リテハ二尺六寸五分、敦賀ニ在リテハ二尺八寸九分ヲ示セリ。又快晴日數ハ福井十九日、敦賀十七日、曇天日數ハ福井二百十四日、敦賀二百十二日、暴風日數ハ福井三日、敦賀三十三日、結霜日數ハ福井四十九日、敦賀二十四日ナリ。

## 戶 口

### 世 帯 及 人 口

昭和十年十月一日現在(國勢調査)本縣一市十一郡ノ世帯總數ハ十三萬三千五百二十四、總人口六十四萬六千六百五十九人ナリ、總人口中男三十一萬六千四百二十四人、女三十三萬二千三百三十五人ニシテ女百人ニ付男九十六人ニ當リ全國平均女百人ニ付男百一人ニ比シ男ノ割合少キハ纖維工業地タルノ故ナラン。而シテ之ヲ全國總人口ニ對比スレバ、0.93%ニ該リ府縣中第四十三位ヲ占ム。之ヲ既往ニ就キテ見ルニ大正九年ハ1.07%第四十三位、大正十四年ハ1.00%第四十四位、昭和五年ハ0.96%第四十四位ナルガ故ニ本縣人口ノ全國總人口ニ對スル割合ハ調査毎ニ遞減シタリ。

總人口六十四萬六千六百五十九人ヲ昭和五年ノ六十一萬八千四百四十四人ニ比スレバ人員ニ於テ二萬八千五百十五人 4.6%ノ増加ニシテ人口減少ヲ示シタル大正九年乃至大正十四年ノ五年間ニ比スレバ著シキ人口増加ト言フベキモ全國平均増加割合 7.5%ニハ猶遠ク及マズ。

### 人 口 ノ 分 布

次ニ人口ノ縣内分布ヲ見ルニ七萬七千二百七十三人(11.6%)ハ福井市ニ其ノ他ハ郡部ニ在リ各郡中人口ノ最モ多キハ坂井郡ノ十萬三千二百二十一人(15.5%)ニシテ、大野郡七萬九千八百五十一人(12.3%)、今立郡ノ六萬三千三百七十七人(9.8%)、

丹生郡ノ五萬八千四百七十七人(9.0%)、吉田郡四萬九千四百二十人(7.6%)、之ニ亞ギ大飯郡ノ一萬七千五百六十人(2.7%)最モ少シ。

市郡ノ人口増減ヲ檢スルニ大正十四年乃至昭和五年ニ於テ丹生及大飯ノ二郡、昭和五年乃至昭和十年ニ於テ丹生、三方、遠敷及大飯ノ四郡ノ減少シタルヲ除ケバ他ハ何レモ兩期ヲ通シ其ノ人口増加シタリ。

昭和五年乃至昭和十年ノ五箇年ニ於ケル人口増加ノ最モ大ナルハ福井市ノ八千七百五人ニシテ吉田郡ノ七千八十四人、足羽郡ノ六千五百九十一人、大野郡ノ二千六百六十人、今立郡二千五百六十五人、敦賀郡ノ二千七百七十八人順次之ニ亞グ。然レ共之ヲ増加割合ヨリ見ルトキハ足羽郡ノ17.3%最モ高ク以下吉田郡ノ16.7%、福井市13.1%、敦賀郡ノ5.1%、今立郡ノ4.2%、大野郡ノ3.5%等ノ順序トス。

人口ノ密度

本縣ハ總面積四千二百六十四・四八方軒ヲ以テ總人口六十四萬六千六百五十九人ヲ除ストキハ一方軒當百五十二人ト爲リ全國平均百八十一人ヨリ稍低シ。市郡ノ人口密度ヲ檢スルニ福井市ハ一萬五千四百五十六人ヲ示シ、郡部ニ在リテハ吉田郡三百十五人最モ高ク足羽郡ノ二百八十七人、坂井郡ノ二百四十三人、敦賀郡ノ百八十八人、今立郡ノ百七十二人、丹生郡ノ百六十人順次之ニ亞ギ大野郡ノ六十二人最モ低シ。

人口動態

昭和十三年中ノ婚姻ハ五千三十九件、離婚五百三十一件ナリ出生ハ男八千六百四十二人、女八千三百四十人、計一萬六千九百八十二人ヲ計ヘ女百人ニ付男百四人ニシテ該ル。同年中死亡シタル者ハ男七千二百五十二人、女七千四百七十人、計一萬四千七百二十二ナルガ故ニ出生死亡ノ差ハ二千二百六十八人ノ自然増加トナル。尙人口千人ニ付出生ノ割合ハ二十五人六死亡割合ハ二十二二人自然増加ノ割合ハ三人四ヲ示シタリ

原因別死亡

昭和十三年中ニ於ケル死亡者一萬四千七百二十二ノ原因別ニ示セバ最高ヲ占ムルハ消化器ノ疾患三千二百七人(21人8分)、之ニ亞グハ呼吸器ノ疾患二千三百三十人(15人8分)、傳染病及寄生蟲病千九百三十九人(13人2分)、神經系及感覺器ノ疾患千九百三十四人(13人1分)、老衰千二百六十六人(8人6分)、乳兒固有ノ疾患九百九十七人(6人8分)、泌尿生殖器ノ疾患七百四十七人(5人1分)、血行器ノ疾患六百四十七人(4人4分)、猶其ノ他腫瘍四百六十七人(3人2分)ハ其ノ最モ著シキモノナリ。

交通

道路

交通ノ狀況ハ國道二路線府縣道二百三線、此ノ總延長百六十四萬八千八百九十二軒ニシテ面積ニ比シ少カラザルモ山地割合ニ多キ關係上其ノ一部或ハ險路峻坂ト爲リ幅員狹少ト爲ルヲ以テ毎年之ガ改良ニ多額ノ經費ヲ投ジツ、アリ。

社 寺 及 宗 教

神社及神職

昭和十三年末本縣ノ神社總數ハ千六百六十八社、神職二百一人アリ。内官幣大社一、官幣中社一、別格官幣社一、國幣中社一、國幣小社一、縣社二十七、郷社四十七、村社千二百七十四、無格者三百十五社等ナリ。

寺院及僧侶

本縣ノ宗教ハ佛教最モ盛ニシテ昭和十三年末ニ於ケル寺院總數ハ千六百六十四、僧侶千六百六十八人ヲ計ヘ、寺院一ニ付世帯八十ノ割合ニ當ル、寺院ヲ宗派別ニ觀ルトキハ眞宗ノ八百七十三最モ多ク縣下寺院ノ半ヲ占メ之ニ亞ギハ曹洞宗二百七十一、日蓮宗百四十、天台宗百十、淨土宗百六、臨濟宗八十、眞言宗六十二、時宗三、黃蘗宗二等ナリ。

官 公 吏

縣 職 員

昭和十五年三月現在ニ於ケル本縣職員ハ千九百八十八人ニシテ其ノ俸給百十七萬三千九百七圓トナル、内勅任一人、委任三十三人、同待遇者七十八人、判任二百三十一人、同待遇者八百六十四人、縣吏員三百四十七人、雇傭員三百十二人、寫託百二十二人ヲ計ヘタリ。

市 吏 員

昭和十三年末現在ニ於テ市長、助役、收入役各二人、主事、技師各三人、書記九十八人、技手十四人、其ノ他三十七人、總數百六十一人ニシテ之ノ内名譽職市長一人ヲ除ク俸給總額十萬六千四百五十五人ヲ計フ。尙此ノ外名譽職ニ屬スル常設委員二十二人、區長九十二人、區長代理者九十二人ヲ併セ二百七人アリ。

町 村 吏 員

昭和十三年末現在ニ於テ町村長百六十一人、助役百七十二人、收入役百五十四人、區長二千二十三人、同代理者千九百八十七人、書記六百八十九人、技手及技術員二十九人、常設委員千二百九十六人、書記補二十一人、其ノ他八十三人、總數六千六百五十五人トナリ名譽職者ヲ除キタル有給吏員ノ給料年額ハ三十五萬四千六百十二圓トナル。

財 政

縣

縣財政ハ明治十四年即チ置縣當時ニ在リテハ僅カニ廿八萬三千餘圓ニ過ギザリシガ日清戰役以來事業ノ勃興ト法令ノ結果ニ依ル等漸ク經濟ノ膨脹ヲ來タシ明治二十九年ニ至リテ約三倍ニ上リ、加フルニ水害復舊工事ニ依ル縣債償還及九頭龍川改修工事ニ對スル支出等ニ依リ年々縣費ノ増嵩ヲ來シタリ。茲ニ於テ縣民ノ負擔輕減ヲ圖ル必要ニ迫リ明治三十五年及同三十七年度ノ兩回ニ亘リ極力財政ノ整理ヲ斷行シタルモ戰後ノ經營ト時運ノ進歩トニ伴ヒ益々財政ノ膨脹ヲ來スニ至レリ

加フルニ其ノ後郡制ノ廢止ニ依リ自然事業ノ増加ヲ來タシ縣費ハ愈々膨脹シタルヲ以テ大正十二年政府ノ旨ヲ体シ一大整理方針ヲ樹テ事業費、事務費ヲ通シテ極力整理緊縮ヲ敢行シ爾來其ノ方針ヲ以テ進ミタルモ法令ニ依ルモノ其ノ他縣民福利増進上已ムラ得ザルモノ等アルタメ昭和十三年度ノ決算ハ八百六十三萬五千七百六十六圓ニ上ルニ至レリ。之ヲ前年度ノ決算ニ比スレバ百四十一萬一千二百七圓ヲ増加シ更ニ十年前ノ昭和三年度決算五百五十八萬三千四百三十八圓ニ比シ三百五萬二千三百二十八圓ノ増嵩ヲ來セリ。

市 町 村

市町村ノ財政狀況ヲ觀ルニ昭和十三年度ニ於テ市費百六十八萬二千三百五十五圓、町村費五百九十一萬二千二百八十八圓何レモ豫算ニシテ之ヲ市町村制實施ノ翌年タル明治二十三年ニ比スレバ、市町村費ヲ通ジテ更ニ約二十四倍ノ多額ニ達セリ縣ハ不斷銳意緊縮ノ方針ヲ以テ之ヲ卒フル所アリシモ社會進展ニ伴ヒ教育、土木、産業、其ノ他ノ施設ニ迫ラルルノミナラズ支那事變ノ影響ヲ受ケ自然經費ノ膨脹ヲ餘儀ナカラシメタリ。

諸 稅 及 負 擔

昭和十三年度本縣ニ於ケル租稅負擔ノ狀況ヲ見ルニ、直接國稅四百二十二萬二千八百八十二圓、縣稅二百五十三萬千三百三十九圓、市町村稅四百十三萬八百三十五圓ニシテ之ヲ一世帶當ニ觀ルトキハ直接國稅三十一圓九十錢、縣稅十九圓十二錢、市町村稅三十一圓二十一錢トナル。

港 灣

敦 賀 港

本港ハ日本海沿岸ニ於ケル主要港灣ニシテ灣内廣濶水極メテ深ク且ツ暗礁砂洲ノ障害物ナキ爲、大船巨船ト雖モ運航自在且繁榮安全ナリ。政府ハ明治十四年工費十萬圓ヲ投ジテ金ヶ崎波止堤ノ築設ニ着手シ、翌十五年其ノ工ヲ竣ヘ、次デ明治二十九年之ヲ特別輸出港ニ指定シ同三十二年開港令公布セララルヤ其ノ一ニモ亦之ヲ加ヘタリ。其ノ後西比利亞鐵道ノ全通スルニ及ビ政府ハ本港修築ノ必要ヲ認メ、明治四十二年四ヶ年繼續事業トシテ工費八十萬圓ノ第一期修築工事ヲ起シ突堤ノ延長、棧橋ノ築設、荷揚場ノ築造、浮漂ノ設置ヲ竣ヘタリ。更ニ第二期修築工事トシテ大正十年度ヨリ直轄工事ヲ起工シ、爾來十ヶ年ノ星霜ト三百六十二萬餘圓ノ巨費ヲ投ジテ銳意之ガ修築ヲ行ヒ、昭和七年三月其ノ竣工ヲ見ルニ至レリ。次ニ歐洲大戰中非常ナル發展ヲ遂ケタル我對外貿易モ同戰後ノ財界變動ニ因リ漸次衰退ヲ來シ其ノ後甚シキ激減ヲ示スニ至レリ。

而シテ昭和十三年中當廳ヨリ移出八萬九千九百五十五噸、價額七百四十三萬九百三十六圓、移入ハ三十二萬九千九百九噸、此ノ價額千五百六十六萬三千七百七圓ニシテ、移出ノ主ナルモノハ蔬菜及果實、雜貨、藥製品並ニ布帛及同製品トシ、又移入ハ石炭、大豆、肥料及飼料ヲ其ノ主ナルモノトス。

尙同年中ノ入港船舶數ハ七千五百五十五隻、此ノ噸數五十五萬六千五百四十三噸ナリ。